

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000161		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	たのしい家八戸ノ里(1)		
所在地	大阪府東大阪市下小坂4-4-13		
自己評価作成日	令和2年6月13日	評価結果市町村受理日	令和2年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2795000161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、家族様、職員が施設の名称通りたのしい我が家のように、親しみを込めて笑顔で、出来ない事のお手伝いと、出来る事は一緒に楽しむ。家族様には、実家に帰るような気持ちで面会を。職員は、ケア21の理念である「最大ではなく最高のサービスの提供」を目指して笑顔で生き生きと働いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笑顔や利用者本位等の独自に掲げた理念を職員間で共有し、職員は常に笑顔を心掛けながら利用者に関わり、家庭的な環境の中で我が家のように暮らせるよう支援し、家族へは実家に戻るよう来訪して貰えるようなホームを目指しています。食事では手作りを大切に季節感のある食事を作り、利用者は団欒の中で職員と共に食事を楽しみ、敬老会や花見等年に4回は家族と共に食事をする機会も作り家族との関わりも大切にしています。また利用者が重度化した際は協力医や訪問看護師と連携し、安心安楽を心掛け最期までホームで暮らせるよう出来る限りの支援に取り組んでいます。外出し難い状況ですが例年であれば四季折々に楽しめる公園への散歩や買い物、近隣施設の祭りに参加したり、事業所の駐車場で行う花火大会は近隣の子どもの参加もあり利用者の楽しみとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の読み合わせ、コンプライアンスマニュアルの読み合わせを、引き継ぎ時に行い、意識を高めている。	法人の理念を基に笑顔や利用者本位、報連相などを謳った事業所独自の理念を更衣室や踊り場に掲示し、1ヶ月に1回開催される会議の際に、職員一同で唱和しています。事業所の理念に基づき、報連相を徹底し、笑顔で1日仕事に携われるよう意識付けを行い理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパー、美容院、整形外科クリニックなど地域資源を利用している。近隣の施設のお祭りや地域の行事に参加するようにしている。	自治会に加入し回覧板や運営推進会議で地域の行事案内を受け、地域の祭りや近隣施設で行われるイベントに参加しています。事業所の駐車場で行われる花火大会は回覧板で案内してもらい近隣の子どもの参加もあり恒例行事になっています。コロナ禍で中止の行事もありますがフラワーアレンジメントや高校生の実習の受け入れなども行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ認知度は乏しいが、昨年に認知症サポーター養成講座を開催しました。来園者は、少なかったですが、これからも発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、施設の取り組みや事故報告などを行い、意見を頂戴している。	2ヶ月に1回家族や地域包括支援センター職員、民生委員、近隣施設職員の参加の下開催される運営推進会議では、事業所の現状や利用者状況、事故報告などを行い意見交換しています。地域の情報や行事の案内をもらい参加に繋げたり、参加者の意見を受けて利用者が音楽を聴く時間を設けるなど、地域交流やサービスの改善に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導には必ず出席し、関係書類の提出などは、持参してコミュニケーションを取るようにしている。運営上の不明点があれば電話で質問して回答を得ている。	運営推進会議議事録はまとめて提出しており、不明な点などは書類の提出の際や電話で確認を取ったり、コロナ禍での運営推進会議の開催などについて相談しアドバイスをしています。研修案内などはファックスで届き、できる限り参加するよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全従業員が身体拘束防止の研修を受け、学んだことに取り組んでいる。玄関の施錠は解除していないが、時間のある限り利用者の希望にて外出の機会を設けている。	年4回管理者が法人の身体拘束の研修を受け職員に伝達しています。虐待の芽チェックシートがあり、年1回個々にチェックして振り返り、状況によっては個別面談を行い周知しています。玄関を施錠していますが利用者が希望した際は付き添って外出してもらっています。転倒防止の為のセンサーマットは、家族の了承の下使用し、毎月必要性を検討しています。	

たのしい家八戸ノ里(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の目チェックシートにて自己管理や他の職員の注意喚起を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が人権に関する研修を受け知識を得ている。カンファレンス、運営推進会議、家族との面会等を通じて各制度が必要になった場合は、支援をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約や、内容の改定等の際には、重要事項説明書や同意書等で納得して頂けるまで丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時の聞き取り、1年に1回のCS満足度調査にて情報を収集し、問題点を職員で話し合い解決している。	玄関に意見箱を設置したり、面会時に利用者の状況を報告する中で家族より意見を聞き、少人数での外出や介護タクシーを利用して外食などを検討しています。利用者の希望は関わりの中で聴き、外に出て気分転換を図るなどその都度対応しています。また年1回法人による満足度調査も行われており、意見をサービスに反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議や職員満足度調査にて意見や提案の機会を設けている。都度、個別面談も行っている。	職員の意見や提案は月1回の会議や年1回の職員満足度調査の他、日々管理者やリーダーに多くの意見や提案が出されています。意見を受けてミキサーなどの物品を購入したり、勤務体制や人員配置などの意見は会議で話し合い休憩時間の確保などに繋げています。また定期面談や様子を見ながら随時声をかけ職員の話聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、経営理念に「現場第一主義」を掲げており、職場環境、労働条件の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の充実と受講に努めており、外部研修の受講を励行する社内風土もある。		

たのしい家八戸ノ里(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所連絡会への参加など、同業者と交流することを励行している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてから信頼関係を築く為、とにかく時間のある限り寄り添い、話を傾聴し不安解消に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の時より、ご本人や家族様が不安の無いように質問の場を設けたり、雑談の中から困りごと等をくみ取っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族様の要望や生活歴やお話しの中から情報収集し、自分たちの持っている知識を生かして必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かして出来ないことへの支援を積極的にさせて頂いている。人生の先輩として料理の味付けなどを教えて頂くなどの信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、利用者様の日ごろの生活や様子などを報告しコミュニケーションをとりながら信頼関係を構築。共に本人を支える関係づくりに努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人等の来訪を受け入れたり、買い物等の外出時に馴染みのスーパーや美容室にお連れしたりしている。	近所の友人や親戚が来訪した際は居室でお茶を出し、ゆっくり寛げるよう配慮をしています。職員と一緒に馴染みの美容院や公園、スーパーへ買い物に出かけています。また家族と馴染みの病院への受診や墓参りに行く利用者の出かける準備を支援したり、年賀状や暑中見舞いなどが届いた際は職員と一緒に読んでおり、馴染みの関係継続の継続に努めています。	

たのしい家八戸ノ里(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂で揃って食事を摂ったり、皆でカラオケやゲーム等のレクレーションを行って利用者様同士の関りを支援している。利用者様が孤立することが無いよう職員は、目配り、気配りをして声掛けをするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても気軽に立ち寄って頂ける関係の構築に努めており、必要があれば支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、1~2名の利用者様の担当となり暮らし方の希望などを伺い、把握し会議にて共有し、本人本位の支援に努めている。	入居前に自宅や施設などへ出向き、利用者や家族から生活歴や趣味、人柄、身体状況などを聞き意向の把握に繋がっています。入居後は利用者寄り添い表情や日々の会話などに傾聴し、汲み取った思いや意向を介護記録に記入し、申し送りや会議で共有すると共に利用者本位に思いが把握できるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、今まで共に生活されてきた馴染みの物や写真、アルバム等を持参して頂き、なるべく環境を変えないように努めている。過去のサービス事業者から情報を取得することもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、目配り、気配りにて、一人一人の利用者様の状況を観察し、普段と様子が違っていたら他の職員と共有し、主治医などに連絡する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やそれ以外の聞き取り、日常生活の中から出た意見や情報を基に作成する。	初回の介護計画は入居前に情報収集した記録や本人や家族の意向を基に作成しています。3ヶ月毎にモニタリング、評価を行い、変化のない場合は6ヶ月から1年の期間で再アセスメントを行いサービス担当者会議で話し合い計画を見直しています。必要であれば往診時に医師や訪問看護師の意見も聞き反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等の記録を連絡ノートや申し送りなどで共有し、必要に応じてカンファレンス等でケアの見直しを検討している。		

たのしい家八戸ノ里(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の日常生活においての目配りから新しい気づき生まれる。カンファレンスにてそれぞれの職員の意見から新たな気づき生まれる。それぞれを共有し、支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しに参加するなど交流の場を少しずつ広げ、資源の発掘を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際しては本人、家族の要望を尊重し、地域の医療機関との関係構築にも努めている。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を伝えていますが、現在は全利用者が24時間対応可能な協力医に変更し月2回往診を受けています。体調が変化した際は協力医の看護師に電話連絡を取り指示をもらい対応しています。専門医への受診は主に職員が付き添いその都度家族と情報共有しています。週に1度の訪問歯科は個々の間隔で受け、整形外科は必要時往診を受ける他、訪問マッサージを受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状態やその変化について訪問看護師や薬局に相談したり、必要であれば主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院中に安心して治療を受け、早期に退院できるよう、病院関係者からの協力依頼には丁寧に応じている。病院の地域医療連携課とは情報共有し関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族様の意向を尊重したうえ、主治医、看護師等と連携しながら方針に沿ったケアに努める。	入居時に重度化や終末期における指針に基づいて事業所で出来ること、出来ないことの説明をしています。状態が変化した際は医師の説明を受けて家族と話し合い方針を決めています。医師や訪問看護師のアドバイスを受け、家族にもできる限り協力を得て安心安楽な環境で穏やかに過ごせるよう支援をしています。年1回行われる終末期ケアに関する研修を管理者が受け、実践に活かせるよう職員に伝達しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関する研修を定期的に行い、備えている。		

たのしい家八戸ノ里(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練等を実施し備えている。災害用の備蓄も備えている。	年2回昼夜を想定し2回共消防署の立ち合いの下、避難誘導や初期消火、通報などの消防訓練が行われています。3日分の水や食料を備蓄し、コンロや非常用のトイレ、毛布などを備えています。地域との協力関係作りを課題としています。	訓練開催時に近隣に声をかけたり、運営推進会議で地域との関係作りについて話し合われてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に向き合った声掛けや対応に努めている。トイレ時、入浴時にはプライバシーの確保に配慮している。	年1回尊厳やプライバシーの研修を管理者が受け、職員に伝達研修を行っています。利用者への呼称は苗字を基本として、親しみを込め人生の先輩として節度を保った対応を心がけるよう伝えています。不適切な対応があった際は、職員間でも注意し合える関係を築いています。希望があれば同性介助での対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに寄り添い、傾聴し、思いや希望を引き出せるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重した支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には、衣服を選んでいただくこともある。月1回の訪問理美容にて髪をセットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方については、調理、配膳、下膳を一緒にいき、食事は、利用者様、職員全員と一緒に摂っている。	業者の献立に沿って食材が届き、利用者は配膳や洗い物などの出来る事に携わり、職員と談笑しながら食事を摂っています。食レクの日を設けお好み焼きやカニすき、花見や敬老会、クリスマスはオードブルや仕出し弁当を取る事もあり、家族と共に食事を楽しんでいます。利用者はエプロンや三角巾を着けて、ホットケーキやベビーカステラ作りなども楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や栄養士に適宜支持を仰ぎながら、適切な摂取ができるよう支援をしている。必要に応じて歯科医師に嚥下状態を確認して頂くこともある。		

たのしい家八戸ノ里(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科医師や歯科衛生士の指導の下、毎食後口腔ケアを行う。必要であれば治療も相談している。(口腔衛生管理体制加算)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングを記録などから読み取り、適宜トイレ誘導を行い、失禁の軽減、自立の支援に努めている。	排泄チェック表より、個々のパターンを把握し、様子も見ながらトイレ誘導の声掛けをしています。日中はほとんどの方がトイレで排泄しており、月1回の個別カンファレンスや日々の中で、行動パターンの把握や排泄用品の種類、支援方法を検討し、家族にも相談しながら排泄の自立支援に繋がるよう支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分コントロールや食事の携帯について主治医や看護師に相談し、必要であれば服薬もする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設側の都合になりがちであるが、無理強いはせず気分よく入って頂けるよう努めている。	入浴は主に午前中に週2回入れるよう支援し、一人ひとり湯を入れ替えてマンツーマンで利用者のペースを保ちながら入浴してもらっています。重度の方も体調を見ながら二人で介助し、湯船に浸かり温まれるよう支援しています。柚子や菖蒲などの季節湯や寒い季節は入浴剤を使用して香りを楽しんでもらっています。拒否のある時は日を改めるなど無理の無いように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜間の睡眠は、個々の習慣を尊重しつつ、生活リズムの安定に配慮するようにしている。昼夜逆転にならないように日中レクリエーションなどにて楽しめるように努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の管理、指導の下、服薬の支援を行い、利用者様それぞれの服薬の状況や変化等の把握、共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や嗜好、出来る事を活かしたレクリエーションを行ったり、家事等の役割をもって頂くなどの支援を行っている。		

たのしい家八戸ノ里(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近隣の公園に出かけたり、近くの喫茶店にも出かけている。時には、介護タクシーを使って外食に出かける事もある。	コロナ禍で外出の機会は減っていますが通常であれば天気の良い日は近隣の公園に散歩や桜や銀杏を見に出掛けたり、職員とスーパーへの買い物や近隣施設の祭りにも参加しています。現在は駐車場での外気浴やプランターの花や野菜の収穫など外気に触れたり、職員と一緒に作ったリビングの壁画で花見気分を味わってもらっています。また家族と墓参りに出向く方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を施設側で預り、外出時に支払って頂くよう支援している。欲しいものがあれば買い物に出かけたり、職員が代わりに購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在1名の利用者様、携帯電話お持ちで友人や家族と会話を楽しんでおられる。ご本人自ら電話をかける方は、おられないが、かかってきた電話に出て頂くことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や室温管理、季節に合った壁飾りなど、環境の整備に努めている。施設外の駐車場の横にある花壇には職員が植えた花や野菜などがあり、鑑賞したり、収穫をして召し上がったたりして季節を味わって頂いている。	リビングの壁に季節の花の貼り絵や月ごとの行事の写真を掲示し、季節感のある空間作りをしたり、庭できゅうりやミニトマトなどを栽培し成長や収穫を楽しんでいます。常時換気を行い温湿度に気を配ると共に日々掃除を行い清潔な空間を保っています。またソファを2ヶ所設置して寛げる場所作りやテーブルなどの座席は利用者の関係性を考慮して随時変更しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にソファを配置して、異なった環境を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで共に生活されてきた馴染みの物や写真、アルバム等を持参して頂き、なるべく環境を変えないように努めている。	入居時に家で使用していた物を持参してもらうよう伝え、馴染みの荷物の持ち込みが困難な際は職員が搬入を支援したこともあります。筆筒やテレビ、ラジカセ、アルバム、木彫りの作品などを持参し、家族が自由に配し居心地の良く過ごせる空間作りをしています。基本ベッドの使用が多いのですが、転倒の予防などで家族同意の下、床に布団を敷いて休む方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全面フラットで、各所に手すりを付けている。共有スペースは見通しが良く、台所、トイレなどには目印を設けており、能力に応じて自分の意志で移動出来るように配慮している。		